

<白金標準、再度 4200 円を確認し 4300 円へ回帰相場・・・>



(出所：オアシス)

日銀金融政策決定会合で YCC の修正を発表している。特に G20 で植田日銀総裁は YCC の修正に対して否定的な発言を行っていただけに、市場にはサプライズの要因となっている。特に米国第 2 四半期 GDP・速報値が 2.4%と上昇した事を受けてドル高・金利上昇から 950 ドルを下回るなど NY 時間帯で売られていた白金標準先物は、日経電子版が YCC の修正の議論が行われているとの報道を受けた円高も重なり、4165 円まで大きく反落している。

ただ週末では FRB が重要視する PCE デフレーターやミシガン大消費者信頼感指数の発表を受け、景気が過熱状態でも冷え込み過ぎている訳でもないゴルディロックスのシナリオになる見方が強まり、円ドルの巻き戻しから 4233 円まで戻りを見せるなど、行き過ぎた値動きの修正が始まっている。特に NY マーカントイル取引所の指定倉庫にある白金在庫は 5.5 トンまで減少し、NY コメックスのプラチナ先物・オプションでも 2 週間ぶりに 11.4 トンのネットロングポジションへ移行しており、大阪取引所における海外投資家のポジションも 597 枚の買い越しへ転じるなど、弱気から強気へ移行を確認しており強気は維持した方が妥当と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が切り下げ、**シグナル** は切り上げている。RCI では**短期**が下げながら、**長期**は維持するなど、強気を維持されており、**200 日移動平均線**が位置する **4296 円**へ向けた戻りが強まると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,680,000円(2023年7月31日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復87,120円(2023年7月31日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>